別紙４

厚生労働科学研究費補助金(厚生労働科学研究費がん対策推進総合事業)
がん患者に対するアピアランスケアの均てん化と指導者教育プログラムの構築に向けた研究
（H29-がん対策-一般ー-027）代表者：野澤桂子

分担研究報告書

アピアランスケア指導者教育プログラム試案の作成

分担研究者　藤間　勝子　　国立がん研究センター中央病院アピアランス支援センター
研究協力者　野澤　桂子　　国立がん研究センター中央病院　アピアランス支援室
清水　千佳子　　国立国際医療研究センター病院　乳腺腫瘍内科
岸田　　徹　　患者代表：　NPO 法人がんノート代表理事
桜井　なおみ　　患者代表：　一般社団法人 CSR プロジェクト代表理事
山崎　多賀子　　患者代表：　NPO 法人キャンサーリボンズ理事

本研究の目的は，がん治療に伴う外見変化へのケア（アピアランスケア）について，E-learning の内容を補い，各地域でアピアランスケア実践に向けた指導的役割を担う人材を育成するための，教育プログラムの策定にある。

研究Ｉでは E-learning によるアピアランスケアの基礎教育資材を開発しているが，それだけでは補えない，患者アセスメント，コミュニケーション，美容専門家や院内他職種へのコーディネート，また簡単な美容技術等のスキルを獲得するための実践的な研修が必要となる。

また，アピアランスケアの実践的内容について研修を行える人材も不足しており，患者へのアピアランスケアの実践と共に，各地域において他の医療者の教育訓練を行える指導者的人材の育成も急務となる。

本研究では，研究Ｉで行った調査や現在国立がん研究センター中央病院で実施しているアピアランスケア研修会参加者からのアンケート調査に基づき，E-learning のアドバンスとしての研修，さらにその研修を実践できる指導者育成についても検討し，研修試案を策定した。今後，実際にこのプログラムをテスト実施し，内容･効果を精査する予定である。

A．研究目的

医療者が行うアピアランスケアについてE-learningによる研修内容を補完し，より実践的なスキルを獲得する研修内容を検討すると共に，その研修を実践できる指導者育成を行う教育プログラムを検討する。

B．研究方法

本研究Ｉの結果および，平成29年11月・12月に実施された，国立がん研究センター中央病院主催のアピアランスケア研修会2018参加者に対してアピアランスケア実践についての調査を行った。結果を踏まえ，指導者育成研究プログラムを策定した。

1．　研究Ｉの方法

別途報告書に記載した。

2．　アピアランスケア研修会参加者へのアンケート調査

2.1．方法

アピアランスケア研修会基礎編・応用編それぞれの参加者に対し，インターネット調査を通じて，無記名自記式質問紙調査を実施した。

2.2．　対象

アピアランスケア研修会基礎編については

139名，応用編については79名を対象とした。

2.3.　調査項目

基礎編参加者は，アピアランスケアについて系統だった学習をしていない者を前提として，以下を調査した。

(1) 個人属性（職種・所属）　1項目
(2) 研修会への参加動機
(3) 現在のアピアランスケア実施状況　2項目
(4) 実際に患者から受けたアピアランスケアに関する質問項目
(5) 研修会で習得したいアピアランスケアの内容　2項目
(6) 研修会参加費用の負担先
(7) 研修会開催の情報入手先
(8)他業種との連携状況

応用編参加者は, 基礎編修了後, 各病院にて実践を行っている前提で以下の項目を調査した。

(1) 個人属性（職種・所属）1項目
(2) 所属病院でのアピアランスケア展開状況　2項目
(3) アピアランスケア費用に関わる項目　3項目
(4) アピアランスケア展開上の問題点　2項目
(5) 他業種との連携状況　1項目
(6) 実際のアピアランスケアの提供方法　1項目
(7) 研修会参加費用の負担先

2.4. 手順

研修会当日に参加者に対し告知を行い，インターネット上での回答を促した。総回答時間は約3～5分程度と見積もった。

2.5.倫理面への配慮

本研究における調査は，介入なしの観察研究であり，人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に則れば必ずしもインフォームド・コンセントは必要ではない。しかし, 改訂個人情報保護法への対応として, 以下の手続きをもって調査の趣旨説明と同意取得を行った。

本研究の調査実施に先立ち，対象者に対し研究趣旨説明書を提示して説明を行った。書面には, 目的, 方法, プライバシーの保護, 研究への参加が自由意思によるものであること等を明記した。その上で, 回答をもって調査への同意を得るものとすると説明した。

C. 研究結果

1．研究Ｉの結果

別途報告書に記載した。

２．アピアランスケア研修会参加者へのアンケート調査の結果

2.1　回答数

基礎編参加者100名，応用編参加者52名から回答を得た。

2.2.　結果

回答中，指導者教育プログラム策定に向けて参考となる結果としては以下があった。

【基礎編参加者からのアンケート】

(1) 今後アピアランスケア研修会で知識として学びたいことは,「爪障害へのケア方法」（55.0%）「アピアランスケアを行う際の患者とのコミュニケーションの方法」（55.0%）「乾燥や変色，皮疹など皮膚障害へのケア方法」（47.0%）「脱毛や再発毛へのケア方法」（36.0%）が上位であった
(2) 今後アピアランスケアの実習として学びたいこととして,「爪割れや爪甲の亀裂のケア」（22.68%）「患者とのコミュニケーション」（15.54%）「困難事例の検討」（13.4%）「爪囲炎のケア」（11.34%）が上位であった。

【応用編参加者からのアンケート】

(1)アピアランスケアのコストについて
「無料で行っている」(76.0%)であり,「該当する場合はがん相談指導料イ」（10．0%）「該当する場合は皮膚科等の保険診療」（4.0%）であった。
(2)アピアランスケアに必要な物品の準備について（複数回答可）
「病院経費での購入」（15.4%）「関連物品販売店からの貸与･寄贈」(65.4%)が「物品は用意せずパンフレットのみ」（13．6%），「担当者が個人で購入し

ている」（9.6%）であった。

(3)アピアランスケアを実践する際の問題点

応用編参加者より実際にアピアランスケアを実践する中での問題点として,「ケア提供の人材がいない」（58.0%）「アピアランスケアの技術･知識が足りない」(56.0%)「ケアの必要性が病院幹部や経営陣に理解されない」(42.0%)が上位に挙げられた。

また自由記述では，患者に向けたアピアランスケア告知の必要性も複数挙げられていた。

(4)実際のアピアランスケア提供の状況について

ウイッグについての情報提供を例に，アピアランスケア提供の実践方法について尋ねたところ,「販売店のパンフレット提供」（76.9%）「その人のニーズにあった製品の選び方についての情報提供」（59.6%）「ウイッグを用いない場合の対処方法についての情報提供」（48.1%）「ウイッグへの思い込みをただす「考え方」についての情報提供」（50.0%）が上位であった。

2.3.考察

基礎編参加者からのアンケートから，アピアランスケアの知識・技術習得のニーズの中でも，現在開発中のE-learningでカバーしていない内容として,「爪の割れ･亀裂などを含めた爪障害のケアの知識･技術」や「患者とのコミュニケーション」が指導者育成プログラムに加える必要があると考えられた。

また, 応用編参加者からは, 患者に提供する具体的なケア以外に，院内でアピアランスケアを展開する体制づくりについても困難を抱えていることがうかがわれた。

そのうえ，研修会を修了した者にも関わらず，産休や異動などで習得した技能を活用する機会がないと答えたものが13%おり，アピアランスケアに継続して関われる体制作りも大きな課題である。加えて，個別スキルも重要であるが, 組織のモチベーションを上げアピアランスケアを連携･構造化するための働きかけの工夫も求められることが指摘されている。

これらの点を踏まえ，指導者プログラムには，支援体制確立に向けての戦略作りやその実践方法が必要と考えられた。

３．アピアランスケア指導者教育プログラムの試案作成

1．2．の結果を踏まえ，概要（表１）・モデルプラン例１の通り，アピアランスケア指導者教育プログラムを策定した。

表１　研修3日プラン概要（案）

<table>
<tr><td>目標</td><td colspan="3">① アピアランスケアの基本理論を再確認し，判りやすく伝達する方法を習得する。
② 外見加工以外のアピアランスケアの方法(認知変容･社会関係性へのアプローチ)を理解し，患者への実践の仕方，またその伝達方法を理解する。
③ 化粧品や日常整容品を用いた,患者が自ら実践できるケアの方法についての知識を得ると共に，その伝達方法を習得する。
④ アピアランスケアを実践する上で必要となる患者とのコミュニケーション方法を習得する。
⑤ 自施設内でアピアランスケアを実践する際の展開方法について理解する。
⑥ 院外他業種との連携について，実践方法や注意点について理解する。</td></tr>
<tr><td>スケジュール</td><td>1日目</td><td>２日目</td><td>3日目</td></tr>
<tr><td>10:00-10:30</td><td>オリエンテーション
＆アイスブレイク</td><td>脱毛対処に使用する
物品の知識</td><td rowspan="2">事例検討</td></tr>
<tr><td>10:30-12:00</td><td>アピアランスケアの
理論</td><td>眉やまつ毛のカバー
技術</td></tr>
<tr><td>12:00-13:00</td><td colspan="3">昼食</td></tr>
<tr><td>13:00-15:00</td><td>爪障害のケア
実技①</td><td>患者とのコミュニケーション方法</td><td>アピアランスケア展開の方法と
注意点</td></tr>
<tr><td>14:00-15:00</td><td>爪障害のケア
実技②</td><td>認知変容をもたらす
アプローチ方法</td><td>自施設や地域でのアピアランスケア研修の企画・実施方法について
①＜モデルプランの説明＞</td></tr>
<tr><td>15:00-15:15</td><td colspan="3">休憩</td></tr>
<tr><td>15:15-16:15</td><td>色素沈着のカバー
理論</td><td>社会的関係へのアプローチ方法</td><td>自施設や地域でのアピアランスケア研修の企画・実施方法について
②＜よりよい指導方法の検討＞</td></tr>
<tr><td>16:15-17:15</td><td>色素沈着のカバー
実技</td><td>院外他業種との連携
方法と注意点</td><td>自施設や地域でのアピアランスケア研修の企画・実施方法について
③＜総合ディスカッション＞</td></tr>
<tr><td>17:15-17:30</td><td>質疑応答・まとめ</td><td>質疑応答・まとめ</td><td>質疑応答・まとめ</td></tr>
</table>

【モデルプラン例１】

モデルプランは自施設や地域でアピアランスケアの研修を行う際，基本となるプランとして設定している。

アピアランスケア　基礎講座

目標　　アピアランスケアを院内展開するための知識・技術を習得する
10:00-10:15　オリエンテーション＆アイスブレイク
10:15-11:15　アピアラスケアの基礎知識
11:15-12:00　患者へのコンサルテーション方法
12:00-13:00
13:00-14:00　認知変容やコミュニケーションへの介入①　レクチャー
14:00-15:00　認知変容やコミュニケーションへの介入②　ロールプレイ
15:00-15:15
15:15-16:15　アピアランスケアの院内展開　①ケア提供の準備
16:15-16:45　アピアランスケアの院内展開　②院内の理解を得るために
16:45-17:15　他業種との連携について
17:15-17:30　まとめ＆質疑応答

○　アピアランスケアの基礎知識
医療者が行うアピアランスケアについて理解している
医療者が行うアピアランスケアについて他者に説明できる
患者のアピアランスの悩みに対応する基本的なスタンスを理解している

○　患者へのコンサルテーション方法
外見（A)・認知（C)・社会（S)分析を理解している
ACS分析に基づき，患者のケアを立案できる
認知変容を促す提案ができる
アピアランスケア実践時の基本的なコミュニケーションの方法を理解している
アピアランスケア実践に必要なコンサルテーション方法を他の医療者に説明できる

○　認知変容やコミュニケーションへの介入
外見に対する認知の変容をもたらす方法を理解し，その実践ができる
患者の社会関係を理解し，周囲と適切なコミュニケーションができるよう患者に指導できる
認知変容やコミュニケーションの適正化について，他の医療者に説明できる
ロールプレイングの際に，ポイントを抑えたアドバイスができる

○　アピアランスケアの院内展開　①ケア提供の準備
患者にケアを提供するための物品等の準備について，他の医療者に説明できる
患者支援の際の注意点（患者への告知・ケア展開の場面設定など）について，他の医療者に説明できる
患者支援の方法　個別・グループ

○　アピアランスケアの院内展開　②院内の理解を得るために
他業種との連携について

D．今後の展開

作成したプログラムの妥当性と有用性の評価に向け，実際にアピアランスケアを実践する医療者を対象に教育プログラムを施行する。評価については，Kirkpatrickの研修評価枠組み（The Kirkpatrick Model of Training Evaluation）を用いレベル1:Reaction，レベル2:Learning，レベル3:Behaviorについて評価する。対象者は20名，前後比較研究デザインで行う計画である。

E．健康危険情報

特記すべきことなし。

F．知的財産権の出願・登録状況

特記すべきことなし。

G．研究発表

1.論文発表

(1) 藤間勝子, 患者の悩み･疑問に応えるアピアランスケア　コスメ, 眉毛, まつ毛　化粧品を用いたアピアランスケア, がん看護, 23(4) , p.396-399，2018

(2) 藤間勝子，がん治療による外見変化とその支援としてのアピアランスケア，Aesthetic Dermatology 29（1）p.1-9，2019-3

2．学会発表

(1) 藤間勝子，がん患者のアピアランスケア，第 31 回日本サイコオンコロジー学会総会，2018-9-21～22，金沢

(2) 藤間勝子, 一般人を対象とした, がん治療に伴う外見変化の知識・対処に関するインターネット調査，第 56 回日本日本癌治療学界学術集会，2018-10-18～22，横浜

(3) 藤間勝子，日常整容品を用いた爪障害への対応～明日からできる簡単ケア～，日本緩和医療学会 関東･甲信越支部学術大会，2018-11-4，東京

H．知的財産権の出願･登録状況　なし